

## 事後評価シート

調査研究課題名	事業目的別歳入債券の有効活用に関する研究
担当者	前主任研究官 長野幸司、主任研究官 日下部隆昭 前研究官 江岡幸司、研究官 渡瀬友博、研究官 森山弘一
当初目標と目標達成度	<p>本研究の目標は、我が国における金融市場からの資金調達による社会資本整備手法の特徴を整理した上で、文献調査及び事例調査を踏まえて、米国のレベニューボンド制度の特徴を整理するとともに、今後の我が国における社会資本整備手法としてのレベニューボンドの導入に向けての課題整理を行うことである。</p> <p>第2章では、ミニ市場公募債やPFI等の我が国における金融市場からの資金調達による社会資本整備手法の特徴を整理できた。第3、4章では、文献調査及び事例調査を踏まえて、米国のレベニューボンド制度の特徴を整理できた。第5章では、我が国における金融市場からの資金調達による社会資本整備手法とレベニューボンドの特徴について比較分析ができた。第6章では今後の我が国における社会資本整備手法としてのレベニューボンドの導入に向けての課題整理ができ、目標は概ね達成できたと考えられる。</p>
調査研究内容の妥当性	<p>本研究では、「規律付け」と「魅力付け」という観点を中心に、ミニ市場公募債やPFI等の我が国における金融市場からの資金調達による社会資本整備手法の特徴を整理した上で、文献調査及び事例調査を踏まえて、米国のレベニューボンド制度の特徴を整理している。さらに、我が国における金融市場からの資金調達による社会資本整備手法とレベニューボンドの特徴について比較分析を行った上で、今後の我が国における社会資本整備手法としてのレベニューボンドの導入に向けての課題整理ができ、有意義な整理・検討を行うことができたと考えている。</p>
調査研究の仕組みの妥当性	<p>民間資金を活用した社会資本整備手法について専門的知見を有する(株)三菱総合研究所に業務を一部委託したことにより、米国におけるレベニューボンド制度の概要、活用実態等について適切に整理することができた。</p>
成果と活用(予定)	<p>次年度に、商品設計・シミュレーション及びレベニューボンドの導入可能性の検討を行い、以上のアウトプットと合わせて、新たな金融市場からの資金調達による社会資本整備手法の導入の基礎資料としての活用が期待される。</p>
その他	<p>・報告書を省内外の関係者へ配布および研究所HPにて公開(予定)</p>
内部評価委員会意見	<p>・「民間による信用補完制度の充実」が規律付け(P.99)と魅力付け(P.101)の両方に記述されているのでいずれかを削除してはどうか。【ご指摘どおり修正】</p> <p>・報告書の100ページ以降の『考察』については、内容がやや不十分であるので削除して、その代わりに、それらの内容を充実させるために今後何を行う必要があるか、という課題の形で整理し直してはどうか。【ご指摘どおり修正】</p> <p>・『エッセンシャルティ(純粹公共性)』(P.43)とはもっと具体的にどういうことか。【誤訳を『事業の不可欠性』に修正】</p>